

フロッターージュを用いた造形活動の展開

川里 智子

Working on Arts and Crafts Activities by Frottage

Tomoko KAWAZATO

Abstract

The pictorial technique “frottage” is a technique to render an image by placing a sheet of paper on an object with an uneven surface and rubbing it with a marking agent. People can use various rendering materials, discover a lot of rubbing patterns, and merge the rubbing patterns into their paintings. It leads to dynamic artistic expression. This process is examined with completed works and questionnaire results.

Keywords: frottage, rubbing, drawing material, paper, pictorial rendering

要約：

絵画表現技法「フロッターージュ」は、凸凹のある面に紙を置き、様々な素材を擦り出す行為を楽しむことや、擦り出された形態が様々あることを感じ取り、擦り出された形態を絵画の中に取り入れることによって豊かな絵画表現に繋がることを、完成作品やアンケート結果から考察する。

キーワード：フロッターージュ・擦り出す・描画材料・紙・絵画表現

1. はじめに

幼稚園教育要領の感性と表現に関する領域「表現」の内容では、「生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。」や「生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。」と挙げられている。¹⁾ (2018)『幼稚園教育要領解説』p 235、238 幼児の生活の中で色、形、手触りなどに気付き

感じ、楽しむことができるのは、絵画表現技法フロッターージュを使用すると良いと考え、本研究ではフロッターージュを用いた造形活動を展開した。将来、幼稚園教諭や保育士になる学生にとって、普段生活している短期大学や周辺の環境がフロッターージュを通して楽しみながら知ることができると考えた。また、擦り出すことで色々な形があることに気付き、その発見の楽しさを知り、擦り出された形態から想像を深め、コラージュにより絵画表現を深めていくことができると仮定し、造形活動を展開し、制作工程やそれぞれの完成作品、アンケート結果などから考察をする。

2. フロッターージュの解説

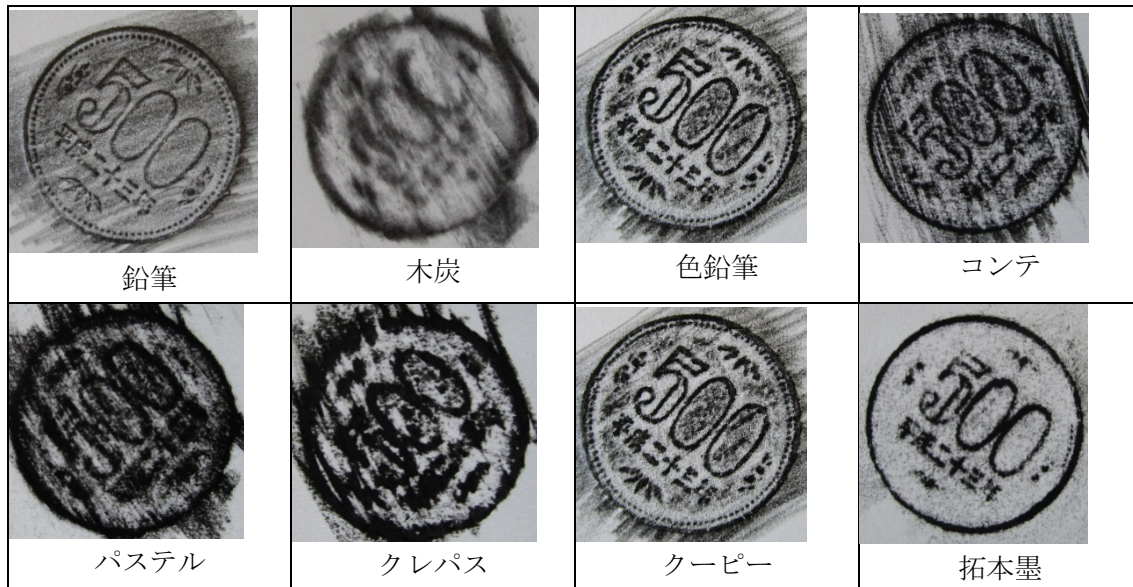
フロッターージュ (frottage: 仏) は、フランス語で擦り出す、磨くという意味である。凸凹のある物の上に薄い紙を置き、その上から鉛筆やクレパス等の柔らかい描画材料で擦り出す。また墨や絵の具のついたタンポで叩き、凸部の形を映し出す凸版画の版形式に入る手法もある。魚拓や拓本などの手法もフロッターージュと同様で、硬貨、木の木目、コンクリート、畳の目、葉の凹凸などの形を切り抜いた画用紙、その外形、シルエットを擦り出すことができる。²⁾ 近畿大学九州短期大学保育科 美術表現研究室『フロッターージュ(擦り出し)frottage』また、クレパスやクレヨンで擦り出した紙に、水彩絵の具を塗ってバチックに仕上げることもできる。³⁾ (すぐ作りたい! 遊びたい! 図工の基本と応用アイデア集 (2007) p16)

フロッターージュはドイツのマックス・エルンスト (1891~1976) が画面の一部分に表現し始めた技法である。「1925 年 8 月 10 日のこと、彼は滞在中のポルニックのホテルの一室で、すり減った床の木目の溝が呼びおこす不思議な魅惑をもっと深めるために、その上にスケッチ・ブック紙を置き、鉛筆でこすったのだ。」⁴⁾ (著サラヌ・アレクサンドリアン『MAX ERNST』p50) とあるように、素材そのものが持っている模様の美しさや形の魅力にマックス・エルンストは着目していたようだ。「彼の創作活動が根本的に変化したのは、1925 年頃の前フロッターージュの発明によってである。」⁵⁾ (ウーヴェ・M, シュニーデ解説 (1980)『シュールレアリズム』p68) ここで言う彼とはエルンストである。「ある種の素材や形を擦り出すことにより自分の想像力を刺激しようとして、エルンストはこの方法を発見したというだけで充分だろう」⁶⁾ (ウーヴェ・M, シュニーデ解説『シュールレアリズム』1980 p68) とあるように、彼はあらかじめ決めた形を狙って擦り出すのではなく、擦り出された形から想像力を刺激して、偶然できた形から連想して絵画作品を作り上げたことが分かった。

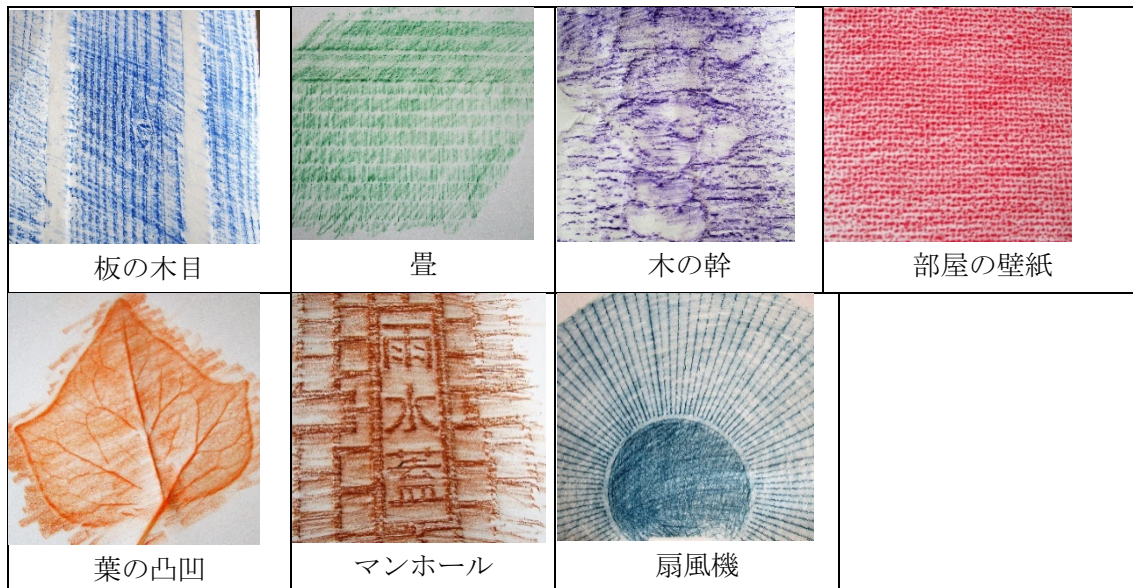
フロッターージュが用いられているエルンストの作品には、『大きな森』(1927 年制作 パーゼル美術館) や、『博物誌』より木の葉の習俗 (1926 年制作 徳島県立近代美術館) など多数ある。『博物誌』より木の葉の習俗は、鉛筆によるフロッターージュをもとにしたコロタイプで、板の木目や葉脈が美しく擦り出されている。⁶⁾ (京都市立芸術大学美術教育研究会『美術資料』p14) 違った性質を持つ素材を組み合わせることによって、幻想的な世界が表現されており中央に配置している葉が大きな樹木のように感じられる作品である。

3. 描画材料、擦り出す対象物、紙による比較

描画材料、対象や紙によって、擦り出される形や風合いに違いがあるのか実験している。



(写真1) 描画材料での比較。擦り出される対象物は硬貨に限定し、すべてに西洋紙を使用している。



(写真2) 擦り出される対象物の比較。描画材料は色鉛筆に限定し、すべてに西洋紙を使用している。



(写真3) 擦り出される対象物は桜の木の幹に限定し、拓本墨でフロッタージュをしている。様々な紙を使用し比較している。

描画材料によって、擦り出される形に変化があるのか実験した。五百円硬貨は表に桐、裏面に竹と橘がデザインされている。裏面の数字と竹や橘が鉛筆、色鉛筆、クーピーでは細やかな部分まで擦り出せた。数字など大まかな部分を擦り出せたのは、拓本墨であった。細やかなデザインを擦り出すのにむかないのは木炭、コンテ、パステル、クレパスであった。ただコンテ、パステル、クレパスは何回も描画することなく簡単に擦り出しができた。また「クレパスやクレヨン画用紙があれば幼児子どもでも描いて表現することのできる手軽な描画材料です。」⁷⁾(よくわかるクレヨン・クレパス p94)クレヨンは手に入りやすい描画材料で、発色もよく子どもでも簡単に表現することができる。

擦り出される対象物によって、形が違うのか比較した。身の周りにある、実践しやすい対象物を選んだ。比較しやすいように、西洋紙と色鉛筆を使用している。はっきりと分かりやすい形が出たのは、葉の凸凹、マンホール、扇風機であった。次に形が擦り出しやすいのは板の木目、部屋の壁紙である。形が分かりにくいのは畳、木の幹だ。幼児教育でフロッタージュを実践する場合、園庭に行き自然に触れ合いながら、無限にある対象物を自分自身で探す場合がよくある。実際に凸凹の擦り出しをすることで、失敗しながら経験を重ねていき「この模様を美しく表現するためにはどうすればいいのだろう」と試行錯誤をすることが大切なことである。

紙による比較だが、紙が違うことで見た目に違いはそれほどないことが分かった。土佐麻紙とは日本画を制作するときに使用する厚地の和紙である。画用紙と土佐麻紙は水に湿らせて、軽く手で押さえて凸凹を付けている。この時、木の幹の凸凹を紙の上から感じることができる。子ども達も木の幹に触ってみると様々な木肌の感触や、触ったことで色々な印象を持つだろう。紙の種類が違うことによる見た目の違いがあまり感じられないことから、フ

フロッターージュをして使いやすい紙は西洋紙、トレーシングペーパー、半紙、手すき和紙だという結果になった。

4. 近畿大学九州短期大学保育科における取り組み

4-I 近畿大学九州短期大学保育科 通信教育部 レポート課題より

平成30年度（2018年度）【保育科】レポート設題集 p41⁸⁾

〈設題3〉(提出：作品×2点) 設題2の美術表現技法①～⑫の中から、1作品につき3つ以上の技法を組み合わせ、2作品制作（2点提出）しなさい。

絵画表現技法①～⑫とは、①collage（コラージュ） ②sputtering（スパッタリング） ③stencil（ステンシル） ④roller printing（ローラープリンティング） ⑤frottage（フロッターージュ） ⑥string design（ストリングデザイン） ⑦decalcomanie（デカルコマニー） ⑧dripping（ドリッピング） ⑨marbling（マーブリング） ⑩stamping（スタンプング） ⑪rolling of type（ローリングオブタイプ） ⑫scratch（スクラッチ）である。レポート課題の中で必ずしもフロッターージュを使用するわけではないのだが、フロッターージュを取り入れて展開しているという点で説明していく。

保育科通信教育部では、絵画表現の基礎学習としてこれら美術表現技法を、通信レポート課題に取り入れている。なぜ美術表現技法を通信レポートで取り上げているのか。竹永は「女兒A・Sによる縦断的作品群が制作された1970年代と2017年代の幼児教育現場における美術表現技法の活用状況の比較から、およそ40年以上前から、これらの美術表現技法が幼児教育の現場で活用され続けていることがわかる」⁹⁾竹永 堉 2017 p82と述べている。幼稚園教諭や保育士になる学生に、実際に幼児教育現場で、これらの美術表現技法を自ら活用できる知識と認識、活用の仕方を考え、習得し制作することを楽しむことにある。

通信教育部 造形表現(指導法)におけるレポート課題の取り組み		
実施対象：近畿大学九州短期大学保育科 通信教育部 学生		
工程		内容
1	4つ切り画用紙を2枚準備する。一つの作品につき3技法以上使うことから①～⑫の中から6技法以上選び、作品の中に使用したい技法を決める。	選んだ技法の表現方法を調べる。課題2において技法の解説がある。実際に作品として表現するためにはどのように使用するか調べる。
2	選んだ技法を別の紙で練習する。	美しく技法を表現できるまで、何度も練習を行う。 ※はっきりと技法の特徴が出るようにする。

3	何度も練習して、技法の特徴が捉えられたら、作品提出用 4 つ切り画用紙で制作する。	フロッタージュを使用する場合は、描画材料や、擦り出す対象物、紙を自分自身で選び、何度も練習する。
4	それぞれの作品の裏に「テーマ」「使用したすべての技法名」「制作意図・材料選択の理由・制作後の感想」を記述する。	フロッタージュを使用した場合は、材料選択の理由と練習した体験を生かし、選んだ描画材料や対象物、紙などについて記述する。
5	2 作品と課題 1(幼児の発達段階と身体的発達の特徴の一覧表)と課題 2(①～⑫までの幼児教育における美術表現技法について解説)を提出する。	1 作品の中に 3 技法以上使われているのか、もう一度確認し、鑑賞者が分かりにくい技法がないか確認する。
		
学生作品①		学生作品②
(写真 4 近畿大学九州短期大学保育科 通信教育部 学生作品)		

学生作品①では、制作時の感想より「幹の表皮の感じを出せるものが中々なく、かなりゴツゴツしたものでないと模様が出なかった」ということだった。実際に何を擦り出したのかは不明だが、幹の凸凹を表現するために、色々なものでフロッタージュを練習したようだ。フロッタージュとしての技法の特徴を活かして、表現していない部分も丁寧に描き足すと良くなる。

学生作品②の制作時の感想より「本物の葉っぱを入れたかったので、フロッタージュを選択しました」とあった。葉脈を擦り出す場合、なるべく濃い色彩の描画材料で擦り出すと良い。ここでは黄緑色の描画材料で擦り出しているのが、葉脈の模様が分かりにくくなっている。フロッタージュを行う際は、鑑賞者にも分かりやすい描画材料を使用すると良い。

4－Ⅱ 近畿大学九州短期大学保育科学生の作品より



使用している描画材料はクレヨン、擦り出す対象物は近畿大学九州短期大学の敷地内を歩き、自分自身で選び、西洋紙を使い擦り出している。色の濃い色画用紙を台紙に使用し、フロッタージュ紙を際立たせている。学生作品①では、マンホールの蓋を擦り出した素材と、葉を擦り出した素材をコラージュし「タコ」を表現している。学生作品②では、硬貨を擦り出した素材と葉を擦り出した素材を組み合わせコラージュしている。両方の作品とも、タコや魚とは関係のない葉やマンホールといった素材がコラージュにより結びつき、自然と不思議な一体感を出している。別々の素材のフロッタージュ紙を組み合わせコラージュすることで、現実にはあり得ない生物ではあるのだが、自然となじんで見えるタコや魚などを制作している。

5. 高校における実験講義より

課題「フロッタージュな謎の生物をつくろう」

色々な素材を描画材料でこすり取ることで、様々な模様を発見し、こすり取る行為を楽しむ。フロッタージュをした素材の形から連想をして、想像力を広げて絵画表現を豊かにする。

5－Ⅰ 福岡県立朝倉高等学校(アンケート調査)

福岡県立朝倉高等学校における「フロッタージュな謎の生物をつくろう」の取り組み
実施対象：高校一年生 20名
実施場所：福岡県立朝倉高等学校 第一講義室、校庭
実施時間：50分授業×2 通算100分 (フロッタージュから、描画やコラージュなど作品制作、アンケート調査まで)
教材：トレーシングペーパー、色鉛筆、クーピー、クレパス、拓本墨、はさみ、スティック糊、色画用紙。

工程		内容
1	マックス・エルンストの『博物誌』より木の葉の習俗を鑑賞する。 鑑賞時間 5分	葉や木目の模様が、どのようにして表現されているのか話し合う。 違った素材を組み合わせることで、どのような効果を生むのか、考えさせる。
2	学校内、校庭で素材を見つけ、トレーシングペーパーにフロッタージュをする。 ※3個以上する。 制作時間 45分	フロッタージュを通して、様々な模様があることを発見し、擦り出す行為を楽しみ、友達とその楽しみを共有する。
3	フロッタージュをした形から連想して、描画やコラージュにより絵画表現を深める。 制作時間 40分	トレーシングペーパーをスティック糊で貼っていく。構成によって、作品のイメージが変わることや、イメージが広がることを気づけるよう助言する。
4	まとめ、アンケート記入、片付け 作業時間 10分	フロッタージュしたものが何に見えたのか、発表する。

5－Ⅱ 調査報告(アンケート)

- ・調査対象：平成30年度「美術Ⅰ」を選択した高校一年生20名
- ・調査実施日：「美術Ⅰ」の授業時間内：平成30年9月4日の1限と2限目に実施。
- ・調査項目

- (1) 色々な形を擦り出して、どう感じましたか？
- (2) フロッタージュは簡単にできましたか？
- (3) フロッタージュした形や色から、何かを想像しましたか？
- (4) 具体的に何を想像しましたか？
- (5) フロッタージュした素材があることで、想像が広がり、作品制作に生かせましたか？
- (6) フロッタージュの制作を振り返り、感想を書いてください。

アンケート結果

- (1) 色々な形を擦り出して、どう感じましたか？

楽しかった	まあまあ楽しかった	楽しくない
15人 (75%)	5人 (25%)	0人 (0%)

- (2) フロッタージュは簡単にできましたか？

簡単だった	まあまあ簡単だった	難しかった	無記入
10人 (50%)	9人 (45%)	0人 (0%)	1人 (5%)

(3) フロッタージュした形や色から、何かを想像しましたか？

想像した	何も想像できなかった
19 人 (95%)	1 人 (5%)

(4) 具体的に何を想像しましたか？

鳥	亀	魚	謎の生物
4 人	3 人	3 人	3 人
にわとり、ポンポン、ハート、うさぎ、かたつむり、動物の頭、魚のうろこ、パイナップル、ロボット、腹筋、モヒカン、ワッフル、羽、顔、犬、イモムシ、ヘビ、人魚、口ばし、風景、人、馬、ラクダ、新聞紙、落書き、出来事			
1 人			

(5) フロッタージュした素材があることで、想像が広がり、作品制作に生かせましたか？

想像が広がり、コラージュして何かを描き足した。
2 人 (10%)
素材を組み合わせることで想像が広がり、コラージュにより表現した。
18 人 (90%)

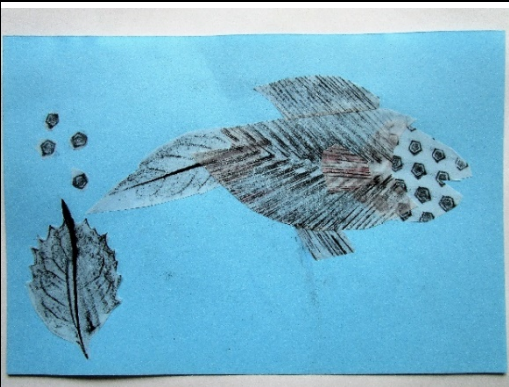
(6) フロッタージュの制作を振り返り、感想を書いてください。(要約)

・初めはフロッタージュがよく分からなかったが、どんどん擦り出すうちに、簡単で楽しいと思いました。(校庭での作業の)帰りに色々な素材を見つけて意外とたくさんあったのだと気づきました。 ・色々な画材を使って自由に表現できてとても楽しかった。 ・フロッタージュした形や色から、たくさんの動物を生み出すことができることを知らなかったのが、びっくりした。 ・色々なものをフロッタージュしたことで、いつも見ている姿より面白い形や模様が見られて楽しかったです。 ・身の周りの物を見て、違う物を想像することはとても新鮮な感じがして楽しかった。

5-III 結果と考察

アンケート結果(1)では、全員がフロッタージュを体験してみて楽しいと答えた。また、フロッタージュを簡単だと感じた生徒も、一名無記入を除いては簡単だったと回答を得た。これらのことから、フロッタージュは楽しく、簡単にできる絵画技法だと言える。また、(3)の質問では、一名を除いては19名がフロッタージュをした素材から何か擦り出した素材とは違うものを想像したと答えた。「想像できなかった」と答えた生徒も完成した作品を見るとウサギのような生物を制作していた。(4)では最も想像が多かった「鳥」に続き、「亀」

「魚」「謎の生物」と動物を発想する生徒が多かった。(5)の質問では、全員がフロッタージュをした素材から想像が広がり、コラージュにより作品制作に生かせたと回答した。感想の記述の中から、いつも見慣れている身の回りのものを擦り出すことによって、違った形や模様を再発見できたことへの驚きと、様々な形を擦り出すことにより発見を楽しんで体験できたことが分かり、本来持っている形から別の物を想像することの楽しさも体感できたことが実感できた。



「魚」をイメージして



「カラフルな魚のうろこ」をイメージして

(写真6 朝倉高校生徒作品)

6. ワークショップにおける体験講座

6-I 福岡県立浮羽究真館高等学校 文化祭でのワークショップ(アンケート調査)

福岡県立浮羽究真館高等学校 ワークショップにおける「フロッタージュなうちわをつくろう」の取り組み		
実施対象：近隣住民(幼児、児童含む)、保護者、近隣中学生、在学高校生など 30 名程度		
実施場所：美術室		
実施時間：30 分を予定している (フロッタージュから、描画やコラージュなど作品制作、アンケート調査まで)		
教材：擦り出す素材(準備した植物の葉)、マーブリング染めをしたうちわ、秋月手すき和紙(フロッタージュをする和紙、しおり、はがき)、色鉛筆、拓本墨、クーピー、油性ペン、丸いシール、絵皿、ヤマト糊、筆洗、平筆。		
工程		内容
1	「フロッタージュなうちわ」の作業工程を説明する 時間 5 分	完成作品から、葉脈や形がどのようにして表現されているのかを考える。 簡単に作業手順を説明する。
2	準備しておいた素材(葉)から選んで、フロッタージュをする。 制作時間 5 分	葉は裏側を擦ると、葉脈が映りやすいなど、アドバイスをする。黄色やうすだいいはいはこすり取ると、目立たないことを伝える。

3	模様のついている部分の和紙を抜き取る。 うちわにコラージュする。 フロッタージュをした形から連想して、描画やコラージュにより絵画表現を深める。 アンケートを記入する 制作時間 20 分	水のついた筆で和紙をなぞると、簡単に和紙を抜き取ることができる。 うちわに素材を糊で貼っていく。 構成によって、作品のイメージが変わることや、イメージが広がることを気づけるよう助言する。 フロッタージュしたものから何を想像したのか、質問する。
---	---	---

6－Ⅱ 調査報告(アンケート)

・調査対象：平成 30 年度浮羽究真館高校文化祭に訪れていた近隣住民(幼児、児童を含む)、高校の体験入学に来ていた近隣中学生、近隣高校生、保護者、在学高校生など合計 30 名。

・調査実施日：平成 30 年 9 月 1 日、一般公開 10：50 から 15：00 まで。

・調査項目

- (1)色々な形を擦り出して、どう感じましたか？
- (2)フロッタージュは簡単にできましたか？
- (3)フロッタージュした形や色から、何かを想像しましたか？
- (4)具体的に何を想像しましたか？
- (5)フロッタージュの制作を振り返り、感想を書いてください。

アンケート結果

- (1)色々な形を擦り出して、どう感じましたか？

楽しかった	まあまあ楽しかった	楽しくない
28 人 (93%)	2 人 (7%)	0 人 (0%)

- (2)フロッタージュは簡単にできましたか？

簡単だった	まあまあ簡単だった	難しく感じた
16 人(53%)	10 人(33%)	4 人(13%)

- (3)フロッタージュした形や色から、何かを想像しましたか？

想像した	何も想像できなかった	無記入
20 人(67%)	9 人(30%)	1 人(3%)

- (4)具体的に何を想像しましたか？

夏	涼しげな感じ
3 名	2 名

にぎやかな森の中、紅葉、ガーデンに立つ自分、秋、涼しげな感じ、木、花火、アニメのキャラクター、竹林、爆発、袖模様、ゲームのキャラクター、夏の祭り、そよ風、林、金魚、ひげのうさぎ

1 人

(5)フロッタージュの制作を振り返り、感想を書いてください。(要約)

- ・作業がとても簡単で、とても楽しかったです。(12 人)
- ・フロッタージュがとても難しかった。
- ・学生さんのアドバイスも助かりました。
- ・想像が広がって、とても楽しかった。
- ・暑かったので、うちわ欲しさに作りましたが、意外と夢中になってしまいました。
- ・短時間で楽しく取り組みました。

6－Ⅲ 結果と考察

(1)は全員が楽しかったと回答している。(2)の質問では「難しく感じた」と答えた人が4人いたことと、(5)の感想の中にも「フロッタージュがとても難しかった」とあったことから、初めてフロッタージュにチャレンジしている人もいるなか、練習をしないで短時間に仕上げることに無理があったのではないかと、改善点があることがアンケート内容から分かった。また(3)の質問では「何も想像できなかった」人が9人といたことから、今回のワークショップでの目的をフロッタージュの体験に限定して、楽しく簡単に作業ができるように努めるべきだったと感じ取れた。ただ、「想像した」と答えた20人から得られた回答は「夏」「涼しげな感じ」や「夏の祭り」「そよ風」とうちわを使用した事との関係か、季節を感じさせる想像も多かった。また、今回のワークショップでは短時間の完成を目的にしている為、フロッタージュをする素材は様々な葉を準備していた。「にぎやかな森の中」「ガーデンにいる私」など自然を想像する人が多数いたことや、うちわを使用したことから、うちわから季節を、葉から自然を想像したのだと推測できる。

	「竹林」をイメージして (成人)		「ハート」をイメージして (幼児)
	「ひげのうさぎ」をイメージして (児童)		「爆発」をイメージして (児童)
(写真7 ワークショップで完成した作品)			

7. まとめ

近畿大学九州短期大学保育科の学生作品①より、マンホールの蓋と葉を擦り出した素材をコラージュし「タコ」を表現していたように、別々の素材を組み合わせることによって、不思議で幻想的な作品ができた。また、フロッターージュの活動が楽しみながら行われていることが、造形活動の実践の中から感じられた。フロッターージュされた素材は、映し出された瞬間やコラージュにより、本来持っている形とは別のイメージを持つことも多いことが分かった。例えば、葉の凸凹は、魚のうろこや鳥の羽になり、コラージュにより作品となった。自由に想像し素材を何かに見立てて制作することの楽しさや様々な模様を発見する喜びも、アンケート結果や感想の中やインタビューから知れた。普段生活している学校や校庭、帰り道など、ただ見るだけでは分からない、実際にフロッターージュしてみると、違う世界が見えてくる。まるで宝探しをしているかのように、ドキドキと楽しみながら擦り出しを行う姿を見ることができた。

今回、ワークショップの中で「フロッターージュが難しく感じた」人が少数いたことは、その場で擦り出しをしやすいように支援することが大切であると分かった。今後の課題として、擦り出しやすい素材の選択や、描画材料の使い方まで細かくアドバイスする必要がある。

参考文献

- (1) 文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 235. 236 頁
- (2) 近畿大学九州短期大学保育科 美術表現研究室『フロタージュ(擦り出し)frottage』
- (3) 中嶋雄一(2007) 『すぐ作りたい! 遊びたい! 図工の基本と応用アイデア集 画材の使い方いかし方』学習研究社 6~9 頁 16 頁
- (4) 著サラヌ・アレクサンドリアン(2006)『MAX ERNST』訳大岡信 河出書房新社 50 頁
- (5) ウーヴェ・M, シュニーデ解説(1980)『シュールレアリズム』山脇一夫訳 株式会社美術出版社 68 頁
- (6) 編集 京都市立芸術大学美術教育研究会 『美術資料』 株式会社秀学社 14 頁
- (7) 辻 泰秀著(2015)『よくわかるクレヨン・クレパス 造形・図工・美術教育の方法』 株式会社サクラクレパス出版部 50~53 頁 94 頁
- (8) 近畿大学九州短期大学 通信教育部 『レポート設題集』平成 30 年度(2018 年度)【保育科】40 頁、41 頁
- (9) 竹永亜矢 塙和道(2017)「美術表現研究 講義「幼児表象画」縦断的記録の検証」『近畿大学九州短期大学 研究紀要第 47 号』82 頁